

第16回 国際天文学連合総会の報告

末元善三郎*

第16回国際天文学連合総会は、去る8月24日から9月2日まで10日間にわたって、冬期オリンピックで有名になったグルノーブルで開催されました。この総会に、日本代表として各国代表会議、財政委員会に出席しましたので、総会の全般的な事務的なことについて報告致します。尚指名委員会には海野和三郎氏が御出席なされたのですが、目下引きつづき滞欧中ですので、主な事項はこの中に含めておきます。

この度の総会には57カ国から約1500名の天文学者が参加致しました。同伴者を含めると2000名足らずというところですが、これはヨーロッパで開催された総会としてはまあ普通程度の集まりであったといえます。内訳はアメリカ合衆国380名、フランス230名、イギリス180名、西独100名等で、日本からの参加者は次ぎの28名でした。青木、飯島、入山、石沢、磯部、岩崎、寿岳、川畑、木下、小平、古在、松田、松波、宮本(正)、向井夫妻、成相(恭)、大脇、進士、末元、須川、田鍋、冨田、内田(豊)、海野、安田、横山、弓。フランスという遠隔地で開催されたにもかかわらず、かくも多数の方々が色々努力なさって出席されたことに敬意を表する次第であります。にもかかわらず日本からもっと多くの人が出席できたらという感じが致しました。

総会の第1回会合は8月24日に、アイススケート場で開かれました。ゴールドバーグ会長から経過報告がありましたが、その中で懸案の中国問題にもふれ、執行委員会で討議を重ねたが、未だ解決の緒がつかめない旨の報告がありました。つづいて各国代表名、指名委員名の紹介、及び財政委員会、決議事項検討委員会等の委員の任命があり、更に書記長コントブロスから総会の第2回会合で議決されるべき議題について簡単な披露がありました。その中にはかねて国内委員会に連絡のあった分担金単位額の10%増額の件も含まれていましたが、事前の連絡と微妙に違って、金フランでは10%であるが、総会の時点ではスイス・フランで10.16%の増額を提案したいということでありました。日本ではスイス・フランで10%増額を概算要求で用意しつつありましたので、事務操作の上で困るかも知れない旨雑談として書記長に伝えておきました。

同じ日の午後には指名委員会と財政委員会の第1回会合があいついで開かれ、前者には海野氏、後者には私が出席しました。財政委員会では単位額増額の他に、77年～

79年の予算について幾つかの問題があるというので、数名から成る小委員会が作られました。小委員会は28日の第2回会合までに精力的に審議を重ね、執行委員会から提出されていた予算案に若干の手直しを施した案を提出し、了承されました。この案は、その直後開かれた各国代表会議の了承を経て執行委員会に提案され、そこで了承された後総会の第2回会合に提案されるという手続きになっています。28日の上記2つの会合は、グルノーブル近郊のサスナーージュ城で、エクスカージョンを兼ねて催されましたが、吾々は缶詰めにされっ放しで殆んど見物できずじまいでした。

一方指名委員会の方は第2回会合を27日夜簡単に開いたようですが、兎に角、日本からは、国内委員会から推薦していた30名と、第16委員会から国内委員会に了承を求めてきていた2名、計32名の新会員が認められました(別表)。これで日本の会員数は174名となります。尚新会員推薦に関して各国の国内委員会の資格基準が不統一であるというので、このことに関する数名から成る小委員会が作られた由です。

総会の第2回会合は9月2日午前、大学内の講堂で行なわれました。会計報告の承認後、77年～79年の予算案、スイス・フランで10.16%の単位額の増額が提案され、可決されました。つづいて、次期特別指名委員会委員の任命があり、又同委員会委員選出法に関する定款付則の改正案が示され可決されました。又各委員会から提案されていた決議事項については同検討委員会の委員長バプーから一括して提案され可決されました。イラクの連合加盟が承認され、又このたび730名の新会員ができた旨報告があり、更に各委員会の新委員長、副委員長、組織委員の選出がありましたが、一時に5名の日本人の副委員長が誕生したことは特筆すべきことでありましょう。組織委員まで含めると20名足らずの人々が役員をつとめることになります(別表)。

次の第17回総会はモンテリオールで開かれることになりました。更にその次の総会についてはブルガリヤからの申し出が1件あった旨報告されました。ついで新会長、書記長等の選出が行なわれ、ブラウが新会長に、ミューラー女史が書記長に、アイルランドのワイマンが副書記長に任命されました。最後に新旧会長、書記長の挨拶があり、第16回総会がとどおりなく終了しました。新会員氏名：相川利樹、平林久、平井正則、海部宣男、兼古昇、前原英夫、舞原俊憲、松田卓也、松本雅道、松本敏雄、向井苑生、向井正、中沢清、成田真二、野

* 東大理学部天文学教室

本憲一，大木健一郎，大江昌嗣，笹尾哲夫，佐藤勝彦，佐藤弘一，柴田行男，祖父江義明，高木光司郎，武田英徳，為永辰郎，土佐誠，鷺見治一，横山絃一，吉田淳三，吉村宏和，第16委員会推薦者：赤羽徳英，岩崎恭輔

主な次期役員：() 内は委員会番号，副委員長：進士(4)，古在(7)，内田(12)，田鍋(21)，飯島(31)。組織委員：堀(7)，安田(8)，平山(10)，宮本(16)，須川(19)，弓(19)，大沢(25)，寿岳(29)，進士(31)，藤本(33)，森本(34)，小平(36)，北村(42)，早川(47)

書評

カラー天文百科

小平桂一 監修

(平凡社，B6 変型版，341 ページ，1,800 円)

本書はドイツ語で書かれた dtv-Atlas zur Astronomie を翻訳して、「日本の風土に一致させるための改訂補筆」を行ったものである。「初心者やアマチュアが，宇宙に関心をもって理論的あるいは実際の活動をしようとするときに重要となる事項に主眼」(原著緒言)をおいて書かれている。

内容は書名に恥じず，天文学の全分野にわたっている。すなわち，天文学史に始まって，球面天文学・天体力学などの古典的分野から，宇宙にある大小さまざまな天体

の物理学的研究の結果が紹介される。ロケットによる探索で明らかになった太陽系の天体の姿やパルサー，ブラックホールといった現代天文学の最先端の話題にもこと欠かない。小から大へ順を追って紹介されてきた宇宙の種々相は「宇宙論」に至って完結する。そのあと一転して地球から見える星空の話になる。ここでは四季の星空と全天の 88 の星座一つ一つが解説される。各星座の由来から，その星座に属する主な星の特徴，目立った天体などが紹介されていて，星空に対する興味を喚起される。さらに付録として平凡社の事典からとった約 500 項目の天文用語解説があり，巻末の索引とともに重宝である。

このような内容もさることながら，本書の特徴はそのユニークな本作りにあるといえよう。本文は原則として見開き 2 ページのうち左側はすべてカラーの図版に，右側が解説に当てられている。カラーの図版は大変わかりやすく，見ていて楽しい。現代感覚にマッチした構成で

わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価240円(〒45円) 77-2月号・12月27日発売!

●2月号のおもな内容

- ★土星の観測のシーズンになります。輪の傾きが小さくなってきて，土星らしくなってきました。にぎやかな冬の夜空で，静かに光っています。
- ★最近短焦点反射望遠鏡が人気を集めています。短焦点反射とはどんな望遠鏡か，良い像を得るためにはどう設計したらよいかなど。星野次郎さんが設計法を解説。
- ★星の民話をあなたもさがしてみませんか。お年寄から星の話を知るときにどんなことに注意したらよいか。
- ★太陽の活動について，天文台の小野実さんが解説。
- ★このほか，隕石③，日食旅日記，連星系めぐりなど。

天文年鑑77年版

毎年11月に発行されるアマチュア観測家のための天文現象案内です。

1月の空から12月の空までの案内のほかに，各惑星，流星，彗星，変光星，新星の一年間の予報と，76年のおもな天文トピックスがまとめられています。

カラー2ページ，グラビア8ページ，本文128ページ

●天文年鑑編集委員会編／B6判・400円好評発売中

天体望遠鏡製作 ハンドブック

5cm級の小型望遠鏡から20cm級の大望遠鏡まで，木製部品の作り方から鉄工所への依頼法，図面のひき方までいろいろな工作法を，写真や図をつけて具体的に説明しました。巻末には観測小屋の自作法も加えました。

●川村幹夫著／B6判・280ページ・1,500円好評発売中

誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5
振替東京7-6294 電話03(292)1211